

令和7年度 第1回 浦安市男女共同参画推進会議（第13期）議事要旨

- 1 開催日時 令和7年8月27日（水） 午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 文化会館 3階 中会議室
- 3 出席者
（委員）
木山会長、菅宮副会長、櫻井委員、井上委員、中西委員、五味委員、塩谷委員、
亀山委員、鈴木委員、延川委員、小笠原委員
（事務局）
企画部長、企画部次長、多様性社会推進課長、他3名
- 4 議事次第
（1）開会
（2）議題
①第3次うらやす男女共同参画プランに係る令和6年度事業実績及び
評価報告について
②改訂第3次うらやす男女共同参画プランの策定について
（3）事務連絡
（4）閉会
- 5 配布資料
・資料1 令和6年度第3次うらやす男女共同参画プラン事業実績及び評価報告書
・資料2 改訂第3次うらやす男女共同参画プラン策定スケジュール（案）

6 議事概要

○委員紹介

委員の変更に伴い、新規委員の紹介を行った。

○議題①第3次うらやす男女共同参画プランに係る令和6年度事業実績及び評価報告について

事務局より、資料1に基づいて説明を行った。

（質疑応答）

委 員 成果指標の、1の④市役所の男性職員の育児休業取得率について、実績値が令和2年度の33.3%から令和6年度の57.1%に増加しており、すでに目標値の50.0%を超えている。目標値としては低く感じるが、どの数値を基に目標値を定めているのか。

事務局 目標値は、第3次うらやす男女共同参画プラン策定時に定めたものであるため、令和2年度実績値を基に定めている。

- 委 員 成果指標の、3の①消防団員に占める女性の割合について、令和2年度の27.7%から令和6年度の38.9%に増加しており、目標値である30.0%を超えているため、目標に対して十分達成しているように見えるが、施策の方向性3の取り組みに対する評価は全てB評価となっているのはなぜか。
- 事務局 成果指標は、各指標に対する数値を表したもので、取り組みに対する評価結果は、各課で行っている取り組みに対して評価をしたものである。
- 委 員 成果指標の、8の②女性のための相談対応件数について、令和8年度目標値を「上昇」としているが、令和2年度実績値361件から、令和6年度実績値291件に減少している。この要因は、悩みが改善された相談者が多く件数が減少したのか、相談を控える人が多く件数が減少したのか。
- 事務局 女性のための相談には回数制限がなく、継続的に利用する方と、悩みが改善し終結になる方がいるが、件数が減少した要因を把握することは難しい。
- 委 員 件数だけでは評価できないことがあるのかと思うが、指標を延べ人数でなく実人数にする等、指標の設定を工夫できると良いのではないか。
- 会 長 より詳しい相談内容を公開することは難しいか。
- 事務局 相談内容については、プライバシーにかかわるため、「DV」「生き方」など、種類別でのみ把握することとしており、現在より詳しい内容の公開は難しい。
- 事務局 令和2年度のプラン策定時には、相談しやすい環境を整備することを目指し、目標値を「上昇」と定めたが、本来、相談事がなくなる社会にすることが理想であるため、先ほども指標の設定についてご意見があったが、プランの改訂にあたっては、どのような指標を設定するか検討していきたい。

○議題②改訂第3次うらやす男女共同参画プランの策定について
事務局より、資料2に基づいて、説明を行った。

(質疑応答)

- 委 員 社会情勢及び、県・国・他自治体の関連計画や動向整理とは、どのようなことをするのか。
- 事務局 第3次プラン策定後から現在までの国や県の動きを整理する。具体的には、困難女性支援法の制定や、育児介護休業法の改正がある。また、国の第6次男女共同参画、第6次千葉県男女共同参画計画が今年度中に策定予定である。
- 委 員 性別を男女で区切るような文言が多いため、もっと多様性に配慮したほうが良い

のではないか。

また、教員を対象に生命の安全教育の活用について周知したことを評価するのではなく、その後、教員の意識が浸透しているかどうかを調査し、評価する必要があるのではないか。

昨今、浦安市内でも教職員による性暴力事件等が起きていることを知る度、教員に本当に意識が浸透しているのか気になる。

会 長 こういった世の中の動きに対して、改訂第3次プランには、どのようにして新規事業として反映されるのか。

事務局 新規事業については、担当課からの提案があったもののほか、多様性社会推進課で課題として認識しているものなどを含め、全庁的に調整し、計画に位置付けることとなる。
男女で区切るような文言が多いという指摘に関しては、今後の改訂で検討していく。

会 長 事業を実施した結果、どのくらい社会に浸透しているのかについて、何かを参考にしているのか。

事務局 各課の事業がどのくらい社会に浸透しているかを把握するのは難しい。多様性社会推進課では、人権啓発活動として様々な事業を行っており、人権作文コンテストや人権標語コンテストへの応募作品から、啓発が浸透していると実感することはある。しかし、数値化は難しい。

委 員 将来像は浦安市民が目指すものだと思うが、事業内容を見ると、市役所が主体のように感じてしまう。
事業所やPTA、学校等を巻き込んでほしい。

事務局 事業所と共に何かできないかということは考えていたので、今後連携していきたい。

委 員 プランを策定するだけではなく、個別の案件は柔軟な対応が必要だということを、市職員や教員に周知をしてほしい。
性教育についても、教育委員会等と連携して環境づくりをしていくことが必要だと思う。

会 長 学校の現場で何か環境づくりをしているか。

委 員 今回の会議の感想として、これだけ多くの事業を集約する成果指標は困難であると感じた。また、事業が浸透しているかどうかは意識調査で判断することかと感じるとともに、目標値の設定は難しいと感じた。
中学校での性教育は、講師を呼び、避妊等かなり踏み込んだ学習になっていると感じるが、小学生、中学生と発達段階によって内容を変え、性別による差別や偏見を無くすという意識を浸透させることは難しい。

そのような中で、学校では、男女混合名簿の作成や、昨年在籍した中学校では、男女別の下駄箱やロッカーについて、生徒会から意見を聞いた。全校で話題にして考えることで意識づけを図れた。

会 長 子どもたち自身が考える機会があることは大きな進歩だと考える。

委 員 「男女共同参画推進会議」だと、性別を男女に限っているような印象を受ける。

事務局 組織名については、多様な性があることなどを踏まえて、令和2年度より「男女共同参画センター」から「多様性社会推進課」に変更した。今後も社会情勢を踏まえながら、会議名等も考えていかなければならないと思う。

委 員 外国人が増えている中で、外国人に対する差別を無くすことや、一人暮らしの高齢女性が増えていくと考えられる中での対応について、改訂第3次プランに反映させてほしい。
取り組みについては、行政だけでなく多様な主体で行うべきだと思う。

委 員 浦安市は市民活動が活発であるため、市民と行政で連携すると良い。

事務局 行政のみで課題を解決することは困難なため、これまでも市民や団体、事業者との連携に努めている。男女共同参画・多様性の分野に関しても、様々な方を巻き込んだ取り組みが重要であると考えており、いただいたご意見を踏まえて、今後もさらなる連携を図っていきたい。

会 長 以上で、令和7年度第1回浦安市男女共同参画推進会議を終了します。